

「月桃葉精油ニ就テ」(豫報)

技師 加福均三
 技手 田崎佐市

纖維植物トシテノ月桃草 *Alphitoe vulanus* Rose. ニ就テハ既ニ幾多ノ研究ヲ見ルト雖其揮發成分ニ關シテノ研究ハ
 嘗テ一八九七年瓜哇バイテンツォルグ植物園報告ニ其根ヨリ得タル精油ノ記載ヲ見ルノミナリ。該報告ニヨレバ根
 ヨリ得ラレタル精油ハ攝氏二十九度ニ於ケル比重〇・九五ニシテ大部分ハ二百三十度以下ニ餾出シ二百五十五度乃
 至二百六十五度間ニ餾出スル餾分ハ肉桂酸「エステル」ヲ含ムモノ、如シト。著者ハ其葉約五〇〇斤ヲ蒸餾シテ約
 一五〇瓦ノ油ヲ得タルガ此油ハ一種清涼ナル月桃葉ニ特異ノ香氣ヲ有シ帶黃褐色ニシテ顯著ナル粘性ヲ呈シ次ノ如
 キ諸値ヲ呈シタリ。

比 重	sp	0.9801:
同	d ₂₀	0.9728
旋 光 度	[α] _D ²⁰	+37.40
屈 折 率	n _D ²⁰	1.4757:
同	n _D ²⁵	1.4750
鹼 化 值	V.Z.	9.88
鹼 化 後 ノ 鹼 化 值	V.Z.n.A.	36.1

鹼化値及鹼化後ノ鹼化値ヨリ見ルニ本油ノ含有スル「アルコホル」分ハ $C_{15}H_{26}O$ トシテ約七三%、「エステル」

月桃葉精油ニ就テ(豫報)

($C_{15}H_{22}O_2$) トシテ三・四%ナルモノ、如ク而カモ元素分析ニヨリ得タル結果ハ

物質	0.153
炭酸	0.4482
水	0.1474
炭素	79.84%
酸素	10.70%
酸	9.46%

ニシテ此組成ハ醋化後ノ鹼化値ヨリ得タル結果ト對稱シ本油ガ水酸化化合物以外ノ酸素化合物ヲ多量ニ含有スルコトヲ指示ス。而シテ五〇%「レゾルシン」水溶液ヲ以テ本油ヲ振蕩スルトキハ其約四〇%容ハ水溶液ニ吸收サル、ヲ以テ見レバ「シネオル」ガ多量ニ存在スベキコト明カニシテ且其香氣ヨリ得タル印象ハ強ク之ヲ憶カムルニ足ルモノアリト信ジタリ。

蒸餾試験 本油ヲ先ツ二五%ノ壓下ニ低温抽出部分ヲ分別セント企テタルニ次ノ如キ抽出量ヲ見其最高溫度ニハ羽毛狀結晶ノ僅カニ析出スルコトヲ認メタリ。

乃ハチ更ニ殘部ヲ四耗ノ減壓ニテ蒸餾シタルニ六五—七五度ニ於テ原油ニ對シ一六%ノ白色結晶體ノ析出スルヲ認メ荷油分一九五%ヲ得タリ。如此シテ三回減壓分餾ヲ行ヒ得タル各餾分ハ次ノ如キ諸性質ヲ呈シタリ。

溫度	收率%	比重(d ₄)	屈折率 _D ²⁰	旋光度 _D (10cm)
60—65/25mm.	17	0.8635	1.4705	+61.8°
65—70/25	5	0.8697	1.4710	+49.0°
70—90/25	12	0.8816	1.4714	+23.8°
80—95/25	5	0.8934	1.4724	+20.0°
95—75/4	10.	0.9327	1.4712	+31.0°
75—90/4	4.	0.9315	1.4850	+23.6°
50—120/4	7.	0.9487	1.5040	-11.2°

此他ニ結晶トシテ析出セシ部分二五%アリ此部分ハ旋光度約四〇度ヲ呈シ其香氣ヨリシテ此者ガ樟腦ヨリ成ルコト明カナリ。又第一餾分ハ之ヲ金屬「ナトリウム」上ニテ常壓下ニ蒸餾スルトキハ殆ント全ク恒等ニ一五六度ニ於テ抽出シ次ノ諸性質ヲ呈シタリ

沸點	156—156.5
比重 ₄ ²⁰	0.8648
屈折率 _D ²⁰	1.4710
分子屈折 _D MR	43.96
同	43.53
分子式	$C_{15}H_{22}O_2$ ナンテノ理論數

而シテ此部分ニ「シネオル」ノ存在ハ假令アリトスルモ甚少量ナルコト明カニシテ此事實ハ「レゾルシン」法ノ結果ト甚シク撞着スルヲ認ム。尙此實驗ヲ進メテ樟腦ノ「セミカーバゾン」「オキシム」等ノ製出「ボルネオル」ノ存否「シネオル」ノ定量、初餾「テルペン」ノ證明及「エステル」分ノ研究ヲナシ次報ヲ俟テ其結果ヲ公ニスベシ。

(大正五年四月)